学生のころ、ある臓器や病気だけではなく、患者、家族、地域の背景や思いも大切にする医療がしたいと考え、地域医療・家庭医療に興味を持ちました。自治医科大学附属病院で初期研修を終えた後、自治医科大学地域医療後期研修プログラムに進みました。

後期研修 1 年目は主に自治医大附属病院を中心としたローテート研修を行いました。自治医大は地域医療を担う人材を育てるための大学であり、附属病院にはどの科にも人を育てようという教育の風土があります。大学病院で専門研修を行いながらも地域医療のための実践的スキルを身につけることができました。

現在は新潟県湯沢町にある湯沢町保健医療センターで研修しています。研修内容としては、外来入院救急から、内視鏡検査、訪問診療、予防接種、健康教育などなど多岐にわたります。湯沢町で唯一の病院であり、地域でのいわゆる「お医者さん」として求められることは全て求められていると思います。そして、ただ診療しているのではなく、家庭医を特徴づける能力としての患者中心の医療や家族志向のケア等についての指導も受けています。研修は非常に忙しく、責任も重く、つらいことや苦しいこともありますが、とても充実した毎日を過ごしています。

地域で働いていると、診察室で行われていることはいかに地域医療の一部分でしかないかということに気づかされます。それを教えてくれるのは、地域のことは何でも知っている看護師長、患者のことは何でも知っているケアマネージャー、祭りのことでお世話になった自治会長、地域の会合に呼んでくださる隣のおじさんなどです。地域の皆さんとのかかわりから多くのことを学ばせていただきながら、それがまた毎日の研修の励みとなっています。

このような視点を持ちながら地域医療を実践し深めるには、それを支えてくださる指導医・先輩・後輩とのかかわりが重要です。自治医大地域医療学センターには地域医療の第一線で活躍された先輩方が多くいらっしゃり、自分もその仲間に加わることで、地域医療マインドの形成、地域医療医としてのアイデンティティーの確立に大きく関わっていると感じます。現在も、年 4 回の研鑽会や年 2 回の研修報告会、学会発表の指導等でご指導いただいております。

地域医療に興味があり、実践したいという方は是非一度見学にきていただきたいと思います。